

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専門	2年	行動科学	2	後	小宮山智志(情報システム)
16年度以前	専門	2年	行動科学			

選択

<授業目的>

皆さんは自分の行動を決めるとき、どのように考えていますか。私は4歳の誕生日から皆さんの年齢ぐらいまで、親の希望する職業につくのが当たり前だと考えていました。しかしいろいろな人々との出会いの中で「当たり前」に従うのではなく、自分はどんなことに向いているのか、真剣に考えては、チャレンジすることを繰り返し、今の職業にたどり着きました。

自分の行動を“現実”と照らし合わせて決める、簡単なことのようにですが、必ずしも行われてはいないようです。歴史的に見ても、意外と新しく、ヨーロッパでは17世紀以降のニュートンの科学革命以降のことでしょう。

“現実”から、「なぜ～だろうか」という“問い”を考えて、つい見逃してしまいがちな人間行動のしくみに目を向けて原因を推理し（仮説を考え）、今後の行動や企画・対策を考えることは、人類に残された最大の仕事です。覚えること、解答を計算することはコンピュータには勝てませんが問いや仮説を考えることは人類にしかできません。また“自分の”問い・仮説を持つことで仕事や勉強を“やらされる”のではなく自分の関心で行動できるようになります。

仕事や人生で、自分や愛する人々のことを真剣に考え“現実”に背を向けずに行動を決定するとき、私が実践してきた、そして人類がたどり着いた“ある一つの方法”をこの講義で実際に皆さんに体験してもらいます。皆さんの先輩が自分の関心に基づいて、問い・仮説を真剣に考えた卒業論文を題材にしています。

<各回毎の授業内容>

第1回：ドラッグストアの店舗のレイアウト～本講義の射程とスケジュール等について

第2回～14回：先輩たちの卒業論文を題材としてします。講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの問いについて個人またはグループで考え、2回目は皆さんの考えと先輩の考えを紹介します。題材とする論文は変更されることがあります。ご了承ください。

2回：なぜ区役所が使いにくいのか～仮説を考える1グループワーク編／3回：解説編

4回：自分一人だけの心理：いじめから環境問題まで～仮説を考える2グループワーク編／5回：解説編

6回：現役の4年生の卒業研究1～問いを見つける1グループワーク編／7回：解説編

8回：彼・彼女との心理的距離はどのぐらいがちょうど良いか～問いを見つける2グループワーク編／9回：解説編

10回：ココロをつかむ映画推奨システム～問いを見つける3／11回：解説編

12回：現役の4年生の卒業研究2～問いを見つける4グループワーク編／13回：解説編

14回：最終レポート解説編（グループワークを含む）／15回：最終レポートグループワーク編

<成績評価方法>

成績は、グループワーク・個人ワーク（5点満点×8回）と最終レポート（60満点×1回）によって評価します（旧態依然とした減点法の試験は行いません）。オリジナリティを高く評価します。

<教科書・参考文献>

教科書：皆さんの先輩の卒業論文・調査をテキストとします。

参考文献：チャールズ・A・レイブ、ジェームズ・G・マーチ（佐藤嘉倫[ほか]訳）『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社 1991年
小林淳一/木村邦博編『考える社会学』ミネルヴァ書房 1991年

<受講に当たっての留意事項>

授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。グループワーク・個人ワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達の意外な推理を楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

資料はホームページ（<http://www.nuis.ac.jp/~komiya/>）で公開します。

<学習達成目標>

- 1) 観察した結果が成り立ちを矛盾なく説明できる仮説を考えられるようになってください（グループ、個人ワーク：10点・最終レポート：30点）。
- 2) 一つの現象について複数の推理（仮説）を考えられるようになってください（5点・10点）。
- 3) 自分の関心に基づいて問いを見つける方法を身につけてください（20点：10点）。
- 4) 覚えるためではなく問い・仮説を考えるための本の読み方を身につけてください（5点・10点）。

（関連する学習・教育目標：H）